

大学生協はコロナを正面から乗り越えている

—ここをもう一步踏み込んでどうか—

仲田 秀

nqb41457@nifty.com

法政大学大学院政策科学研究科 後期博士課程 2014年満期修了

◎Key Words つながる・助け合う／大学生協の事業を通して／総代・総代会で相談して決める

1. はじめに

今回は筆者の2021年報告＝「2010年代、の事業業績をたどる」と、2022年報告＝「小さい(大学)生協、大きい(大学)生協、どこも同じ組織委員会」の続編になっている。数表としては2019年以降の2022年までを使い、組織的考察は組織委員会についてを結合させている。コロナ禍の経営的危機を乗り越えるための「福武貯金」の放出によっても、基本的な協同の組織文化の存在と今後の組織文化の構築が重要であり、カギともいえるのではないかとこのことを提起したいとこの項を起こしている。

筆者は2021pcカンファレンスで、2009年以降の各大学生協の事業経営状況を10年間追いかけてたどってきた。そしてコロナ直前の2018年の全国状況は累積赤字を未だ克服できない生協を30%にまで減少させたことを確認した。そして25生協を具体的に分析し、組織委員会の強さと教職員委員会や理事会議の存在に到達するのであった(筆者は2020年経営組織論と言える論文集を発行したが、そこで活用している方法である)。

そして、コロナによる学生生活の破壊は学園コミュニティを破壊し、教育・研究生活と生協経営を破壊した。だが、22年12月大学生協連第66回総会は、2030年目標と2023年課題を掲げて多くの生協が創意と工夫で、お店をたまり場にして楽しい活動をしてきていることを述べている。筆者は自由に考えて活動できる生協好きが集まって誰かが困っていることを解決しようとする事が大切であるから、そのまま進むことを支援している。同時に、22年総会議案書で大学生協の組織文化を作り出す組織委員会についての記述が見えないことを憂慮している。

2. 全体数値と個別生協で積み上げる数値

大学生協は個別の文化を持った大学環境の中で構成する組合員が力を寄せで事業をして、組合員の生活をも守り育てる協同組合であるから、生協事業が持続的に発展することは重要である。大学生協は地域生協と違って個別の法人であるから、個別の生協の経営数値が独立して重要なのである。そのために筆者は個別生協の経営状態が全体のなかで見えるようにすることを重視してきた。なぜかといへば、個別大学生協の力が、自分たちの組合員に根ざしてどこに対しても対等に物をいえる力を持たなければ、大学生協の持続的発展はないと論証しているからである。個別生協の数値を積み上げて大学生協全体の数値が出来上がるが、一つ一つの表の中に自らの生協の位置が見えるように作っている。各大学生協の各理事会

は、各生協の力でそれをしっかりと守ってほしい。それが大学生協の組織の力であると考えているからである

3. 「福武貯金」に依拠して、到達できた経営状況

今回のコロナによる大学生協経営破壊に対して、1970年代から80年代にかけて大学生協連の会長理事を務められた福武会長理事の遺産というか貯金＝学生総合共済とコープイン京都の土地を取り崩して大学生協の再建に当たったのである。資料をひも解いてみると、1980年の生協数(118)と累積赤字生協数(22)の割合が19.5%であって、2022年度決算で生み出した19.1%とほぼ同レベルであることが不思議と言え一致である。福武元会長理事は経営数値の良くない生協が生協の数にすると19.5%存在するという経営実態を起点に、会員生協の理事会に呼びかけて、すぐみんなで助け合える学生総合共済を各大学生協や文部省に足を運んで訴えて創設し、学会の時、学生の旅行の時に格安で使える居心地のいいホテルくらい大学生協全体で持ってもいいのではないかと、渋谷と京都にホテルを立てる合意を得たのである(詳しくは2006.仲田秀「大学生協と福武直」参照)。

規模・種別	内容	1980年生協数	累積赤字生協数	1998年生協数	累積赤字生協数	2007年生協数	累積赤字生協数	2009年生協数	累積赤字生協数	2015年生協数	累積赤字生協数	2018年生協数	累積赤字生協数	2021年生協数	累積赤字生協数	2022年生協数	累積赤字生協数	2022年の割合
1	国公立30億円以上	7	0	7	2	7	3	7	3	7	2	7	3	5	2	5	1	20%
2	私立30億円以上	4	2	4	4	4	3	4	3	4	2	4	2	3	2	3	2	67%
3	国公立20億円以上	11	2	13	5	13	8	13	5	7	2	7	2	3	3	2	2	100
4	私立20億円以上	4	1	4	2	4	2	4		3	2	3	1	2	2	1	1	100
5	国立10億円以上	16	4	22	12	22	4	22	7	25	9	28	6	18	6	34	9	26.5
6	私立10億円以上	10	2	11	10	11	5	10	6	10	5	9	4	5	2	12	3	16.7
7	国公立5億円以上	20	5	20	8	22	6	22	6	26	11	23	10	29	15	20	5	25
8	私立5億円以上	12	1	19	13	19	11	19	11	17	9	19	7	16	7	10	4	40
9	国公立2億円以上	12	3	21	11	22	6	23	6	24	4	25	4	30	7	24	3	8.3
10	私立2億円以上	8	2	18	10	24	10	24	12	26	9	26	7	27	10	28	5	17.9
11	国公立2億円未満	4	0	20	12	31	8	33	8	24	4	26	5	29	11	26	4	15.4
12	私立2億円未満	5	0	27	22	33	15	34	20	37	19	37	13	44	19	44	11	25
	計	113	22	186	112	210	81	215	91	210	78	213	64	211	86	209	40	19.1
	累積赤字生協数の割合		19.5		60.2		38.6		42.2		37.1		30		40.8		19.1	

注 大学生協経営資料38号～150号(2010.8)、大学生協連提供資料により作成した。
 対象生協数は2009年現在で規模を分類し、この年までに合併、解散をした生協は該当年からはずされたので、その年度会員数とは一致しない。
 2009年迄の数表は[仲田2014]P182表4の2007年数値迄を使用し、2010年以降を3年単位にして加筆した。
 2010年以降は経営資料が作成されていないため、大学生協連の方針は把握されていない。統計数値の提供を受けて3年単位で分析資料を作成した。
 2010年以降は累積赤字は実質赤字を使用している。2012年～2018年は2021年PCカンファレンス論文集より転載、2019年以降は新たに作成している。
 2023.6.30作製。

4. 大学生協にとっての経営の位置

そして、大学生協といえども事業をするのだから、みんなで新しいことをしたいと思った時みんなで決めて使える剰余金は持つておこうと呼びかけて、新しい投資のための剰余金の考え方を提起したのである。それを果たそうと追いかけてきて、さまざまな社会情勢に出会い、今回のコロナで複合的に貯金をほとんど使わせてもらったが、1980年からの発展を図ろうとする経営状態に、現在の組合員全体で戻して出発しようとしていると言えるのではないか。大学生協が全体でも事業経営の合計値と各生協が供給規模で分類するとどの位置に分布しているかが見える表を作表した。今回はこの1表である。規模分類は12分類にした。1980年は福武会長所感の効果をはかりはじめた年、1998年は消費税アップの年、2007年は途中経過年、2009年はリーマンショック、2015年・2018年は経過年、2021年はコロナの影響最大の年である。2022年は今日最近の配分など補填が入った年である。

5. 同じ立場の組合員の、課題を解決するための、組織委員会について

2021年第65回総会では、組合員組織の役割を重視し、大学教職員に加入を呼びかけ、教職員委員会を作って議論してほしいと呼びかける方針を出した。それが66回総会では後退しているように見える。組合員参加の場を作る、つながる、少し弱いことばに変化しているように見える。コロナを乗り越える運動は運動であるから、もう少し頑張ることができる。組合員が自分の要求を自分でまとめていく組織委員会は、つながるだけでなく、つながって離さないで協同するちょっとした強さが必要で、大切なのである。大学生協は全構成員の生協であることが重要なのである。みんな生協に依拠して大学生活を過ごしてきたのだから。教職員委員会や教職員理事会議を作っていくことを求め続けていただきたい。

そして、それぞれの立場で、理事会で意見を戦わせていただきたい。

6. 大学生協の持続的発展のために、今年増やしてほしいこと

まず、考えてほしいこと、これまでの共済活動の組織的位置付けを何処かに置いてあるのだろうか、サポート活動は学生委員会活動に位置付けてあるのだろうか。組織・システムは確立と同時に動いてしまう。大学生協が支援してできた CIEC や JUON が組織文化として大学生協の中に位置づいているのだろうか。無理をしてはいけないが大学生協再構築の時、もう一度引きつけてみる必要はないか。

みなさんとても忙しいけど、教職員に組合員になってもらおう。組合員になって出資して利用して、何か新しいことをちょっとだけ工夫してやってもらおう。生協事業は私たちが、私たちのために生み出した 私たちが考えて作るから、意味がある。生協でのお話は、対等平等だから楽しい。新しいことをどこからでも知ることは、学生も教職員も楽しいことなのである。

最後に一言、つい先日「私にお茶大がくれたもの」というシンポジウムに出席させてもらったのだが、私が大学時代に大学からもらったものは、その後の人生の土台そのものだったことがわかったと伝えた。先輩たちと積み上げてきたから、その協同する組織文化を発展させていけると思う。先輩たちも心配してるから、話す場を作ってみてはどうだろうか

参考文献

- (1) 仲田 秀 「大学生協と福武直」(2006.5)
- (2) 仲田 秀 「大学生協の持続的発展について——理事会のリーダーシップと経営業績」(2020.7)
- (3) 伊丹謙太郎 書評 仲田秀「大学生協の持続的発展について——理事会のリーダーシップと経営業績」 協同組合研究 第42巻第2号 2022.12